

10 スターチス・シヌアータ栽培管理法比較試験

背景と目的

スターチス・シヌアータは仏花として需要が安定しており、市内の花き品目の中で最も販売額が高い重要な品目です。近年、盛夏期に高温傾向が強くなり、株が疲れることにより秋期の品質が低下する傾向が見られるため、お盆の需要が終わり次第株を休ませるために採花前の抽台を刈り取る処理を行い、秋期（特にお彼岸時期）に品質が向上する可能性を検討しました。

関係先 旭川青果物生産出荷協議会花卉部会

耕種概要

作型 5月植え無加温8～10月切り（ビニールハウス栽培）
定植日 5月15日 収穫終 10月30日

供試品種数 7品種（表を参照）

試験区の設定

- ・慣行区：特別な処理を行わず、地域慣行の栽培管理を行い、初夏から収穫終わりまで採花調査を休みなく行う区。
- ・盆刈区：お盆需要が終わる8月15日に採花前の抽台を全て刈りとり、株を休ませる区。刈りとり後に立ち上がった抽台が開花し次第、採花調査を再開。

試験結果

（1）盆刈区の刈りとり処理後の採花再開時期

ほぼ全ての株で9月22日以降となり、8月15日の刈りとり処理ではお彼岸の需要期（9月10日～20日ころ）には間に合いませんでした。

（2）9月22日以降の盆刈区と慣行区の比較（表）

ア 採花総本数、規格内本数

ピリカブルーとFB1208以外の5品種では、盆刈区の採花総本数と規格内本数の両項目が慣行区を上回り、収量性が向上する傾向が見られました。

イ 切花長

全品種で盆刈区が慣行区を上回ったことから、刈りとり処理による効果が非常に高いと考えられました。

ウ 開花分枝数、ブラシ長

慣行区と盆刈区でどちらが優れているか傾向がよくわからないことから、刈りとり処理の効果は小さい、もしくは効果の有無は品種間差があると考えられました。

表 9月22日以降における収量調査と切り花品質調査の結果

品種名	処理区	総本数 (本/株)	規格内本数 (本/株)	切花長 (cm)	開花分枝数 (本)	ブラシ長 (mm)
①紫龍	慣行	7.8	4.6	63.1	4.0	59.9
	盆刈	12.0	8.3	73.2	4.4	64.2
②ミスティック ブルーバード	慣行	8.5	5.1	59.7	3.6	53.1
	盆刈	12.1	8.4	61.9	3.7	52.6
③H11-51	慣行	12.8	5.3	55.2	4.0	41.9
	盆刈	13.4	7.4	62.9	3.8	43.2
④ピリカ ブルー	慣行	15.3	5.3	55.6	4.1	39.7
	盆刈	13.1	7.0	58.9	4.0	38.0
⑤FB1208	慣行	14.0	8.1	58.6	3.8	49.5
	盆刈	10.6	6.4	67.6	4.2	52.4
⑥FB1524	慣行	13.0	5.8	57.4	3.6	53.4
	盆刈	17.3	6.5	60.6	3.7	51.0
⑦オーキッド ピンク	慣行	12.6	2.3	55.2	3.8	55.8
	盆刈	14.8	4.6	56.8	3.4	61.1

販売元：①ホクレン，②～③福花園種苗，④ミヨシ，⑤～⑥住化農業資材，⑦TSメリクロン

(3) 半旬別採花本数 (図)

盆刈区は収穫が全くない時期がありますが、その後慣行区に比べ70cm台、80cm台の切花長が長い切り花を収穫できました。

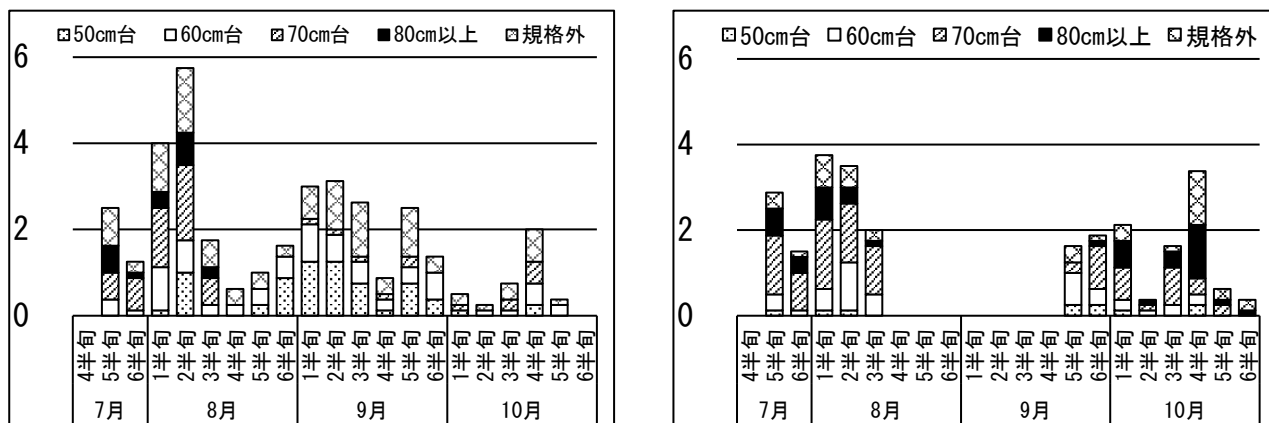


図 半旬別採花本数 左：慣行区 右：盆刈区（紫龍；本/株）

まとめ

本試験では、刈りとり処理後の秋期の切り花は品質（特に切花長）と収量性が向上することがわかりましたが、8月15日の処理ではお彼岸需要期に間に合わず、両区の販売額を試算すると盆刈区は慣行区に比べ2～3割程度減少する結果となりました（データ割愛）。来年度は処理時期や栽培管理の検討を行い、単価の高いお彼岸時期に採花を間に合わせ、高品質の切り花を高単価時期に集中して出荷することで収益性を向上させることを目的に同様の試験を行います。